

平和への祈りを込めて、APUで植樹式を実施 広島で被爆したイチョウ2世の苗木をAPUキャンパスへ

立命館アジア太平洋大学(以下 APU)は、広島原爆の惨禍を生き延びたイチョウの種から育った苗木(被爆イチョウ2世)を、APUキャンパス内に植樹いたします。つきましては、国連デーにあたる10月24日(木)に、下記の要領で植樹式を行いますので、ご取材のほどよろしくお願申し上げます。

植樹される苗木は、「Green Legacy Hiroshima(グリーン レガシー ヒロシマ) 詳細下記」から贈られるもので、当日は同団体の創設者 Nassrine Azimi(ナスリーン・アジミ)氏も参列し、平和へのメッセージを述べられます。

今回の植樹は、2012年夏、本学の MAHICHI Faezeh(マヒチ ファエゼ)アジア太平洋学部 准教授が、広島を訪れた際、同団体創設者の Azimi 氏に出会い、親交を深めたことをきっかけに、「自由、平和、人間性という理念のもとに世界中の学生が集まる APU にぜひ苗木を贈りたい」という Azimi 氏の提案により実現したものです。

Green Legacy Hiroshima から贈られた被爆イチョウ2世の植樹式 概要

日時：2013年10月24日(木) **11:15 ~ 11:30** (小雨決行)
場所：立命館アジア太平洋大学(別府市十文字原1-1) **F棟間の中庭(添付地図参照)**
内容：Nassrine Azimi(ナスリーン・アジミ)氏、
PORTER, Edgar(ポーター・エドガー) APU 学長特命補佐、
上2名が平和へのメッセージを述べるとともに、植樹を行います。

「Green Legacy Hiroshima(グリーン レガシー ヒロシマ)」は、広島原爆を生き抜いた樹木を守り、その平和のメッセージを伝えることを目的に、UNITAR(ユニタール：国連訓練調査研究所)とNPO法人 ANT-Hiroshimaによって設立されました。「緑の遺産」である被爆樹木の種と苗を通じて、平和のメッセージを広島から国内外に届けています。これまでにアフガニスタン・アルゼンチン・オーストラリア・チリ・南アフリカなど15カ国以上の植物園や大学等に種や苗を送っています。

<http://www.unitar.org/greenlegacyhiroshima>

Nassrine Azimi(ナスリーン アジミ)

Green Legacy Hiroshima 共同創設者並びにコーディネーター

UNITAR(国連訓練調査研究所)シニア・アドバイザー

イラン生まれ。スイス国籍。ローザンヌ大学で政治学の学士号、ジュネーブの高等国際問題研究所で国際関係の修士号を取得。また、ジュネーブ大学建築学部で都市研究学の修士号を取得。UNITARでは、ジュネーブ本部事務所での初代環境訓練プログラムコーディネーター、並びに本部次長、ニューヨーク事務所所長を歴任。2003年、アジア太平洋地域事務所を広島に立ち上げ、初代所長に就任。執筆、出版活動も多く、その内容はトレーニング、国連の平和維持活動、紛争後の再構築、建築、環境と幅広い。

ご取材を希望される場合は、事前に学長室広報担当(0977-78-1114)までご連絡ください。上記の内容は予定のため変更する可能性がございます。最新情報はお問い合わせください。

【本発表資料のお問い合わせ先】 学長室(広報担当)担当：安岡・杉本

Tel:0977-78-1114 携帯:090-5473-3803 Fax:0977-78-1113 URL: <http://www.apu.ac.jp>

住所：〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1

本リリース(全2枚)は、大分県政記者クラブ・別府市政記者クラブ加盟各社に送信しています。

植樹場所のご案内

